



教員 プロフィール・研究活動業績

沖縄キリスト教学院大学

照屋 信治 (TERUYA, Shinji)

沖縄キリスト教学院大学 人文学部英語コミュニケーション学科 教授

【プロフィール】

取得学位、 大学・機関、取得年	学士号(文学) 早稲田大学第一文学部史学科 日本史学専修卒業、1994年 修士号(学校教育学)兵庫教育大学大学院学校教育学専修・領域研究学専攻修了、2003年 修士号(教育学)京都大学大学院教育学研究科教育科学専攻修士課程修了、2007年 博士号(教育学) 京都大学大学院教育学研究科教育科学専攻博士課程修了、2011年	
専門分野	教育学、歴史学	
研究分野	近現代沖縄教育史、近現代沖縄思想史、近代日本教育史	
研究職歴等	沖縄県立高等学校教諭 1994年—2003年 天理大学体育学部非常勤講師 2009年—2010年 太成学院大学人文学部非常勤講師 2010年 沖縄キリスト教学院大学 人文学部英語コミュニケーション学科 准教授 2011年— 同 教授 2016年—	
担当科目	教職の意義、教育原理、教育の制度、総合教育研究、道德教育の研究、特別活動の研究、教育実習事前事後研究、教育実習、沖縄の歴史と現在、卒業研究	

【研究活動業績】

研究業績 (著書)	『近代沖縄教育と「沖縄人」意識の行方—沖縄県教育会機関誌『琉球教育』『沖縄教育』の研究—』(溪水社、2014、単著) 『沖縄の教師像—数量・組織・個体の近代史』(藤澤健一編、榕樹書林、2014、共著) 『沖縄で教師をめざす人のために』(上地完治、西本裕輝編、共同出版、2015、共著)
--------------	--



研究業績
(論文など)

1. 「1930年代 沖縄における郷土教育の思想と実践—豊川善暉と「沖縄人」意識の行方—」『沖縄キリスト教学院大学 論集』第9号、2012年、1-12頁
2. 「「沖縄方言論争」と『沖縄教育』誌上の「標準語」教育論—「混用」という可能性—」日本教育史研究会『日本教育史研究』第30号、1-27頁、2011年、38-64頁
3. 「[書評]後田多敦著『琉球救国運動 抗日の思想と行動』」、歴史科学協議会『歴史評論』第736号、2011年、92-96頁
4. 「『沖縄教育』にみる「沖縄人」意識の形成—1910年代の親泊朝擢の言論に着目して—」、歴史学研究会編『歴史学研究』第876号、2011年、1-19頁
5. 「[書評]屋嘉比収著『〈近代沖縄〉の知識人 島袋全発の軌跡』」、琉球大学国際沖縄研究所『国際沖縄研究』第2号、2010年、118-121頁
6. 「県文化運動の機関」としての『沖縄教育』—1923年から1933年までの誌面分析—、『京都大学大学院教育学研究科紀要』第56号、2010年、293-305頁
7. 「沖縄教育における「文明化」と「大和化」—太田朝敷の「新沖縄」構想を手がかりとして—」、日本教育学会『教育学研究』第76巻第1号、2009年、1-12頁
8. 「『琉球教育』(一八九五—一九〇六)にみる沖縄教育の原型—新田義尊の沖縄教育論とそれへの対応—」、歴史科学協議会『歴史評論』第683号、2007年、74-91頁
9. 「『琉球教育』(1895-1906)にみる沖縄教育の展開—「学術」「教授と訓練」欄の傾向を中心に—」、教育史学会『日本の教育史学』第49集、2006年、71-83頁
10. 「生徒の政治参加意識を高める公民教育の研究—沖縄人にとっての日本史の授業の創造—」、藤井徳行氏との共著、兵庫教育大学学校教育研究センター編『学校教育学研究』第16巻、2004年、113-118頁
11. 「『琉球教育』(一八九五—一九〇六)の史料的位置づけ—皇民化概念のとらえ直しをふまえて—」、日本法政学会『法政論叢』第40巻第1号、1-16頁、2003年



教員 プロフィール・研究活動業績

沖縄キリスト教学院大学

研究業績 (その他)	<ol style="list-style-type: none">1. 第 24 回石川謙賞受賞(日本教育史学会)、2011 年2. 「沖縄における平和教育のあり方—「加害者の視点」の導入「平和の礎」「従軍慰安婦」「霧社事件」」、『沖縄をどう教えるか』編集委員会編『沖縄をどう教えるか』解放出版社、2006 年、134-138 頁3. 「「方言札」の授業—沖縄人の主体性を磨き上げるための実践—」、沖縄県高等学校地理歴史科公民科教育研究会編『沖高地歴公民研紀要』第 22 号、2000 年、30-47 頁4. 「沖縄での「被差別部落の授業」の試み—「被差別部落」と「沖縄」とをつなぐ—」、沖縄県高等学校地理歴史科公民科教育研究会編『沖高地歴公民研紀要』第 21 号、1999 年、8-29 頁5. 「沖縄における平和教育の在り方—「加害者の視点」の導入・「平和の礎」・「従軍慰安婦」・「霧社事件」—」(沖縄県高等学校地理歴史科公民科教育研究会編『沖高地歴公民研紀要』第 20 号、1998 年、21-32 頁6. 「アイデンティティの問題として—5・15特設授業の実践報告—」沖縄県高等学校社会科教育研究会編『沖高社研紀要』第 18 号、1996 年、36-47 頁7. 「沖縄県における平和教育についての考察—加害者の視点の導入—」沖縄県高等学校社会科教育研究会編『沖高社研紀要』第 17 号、1995 年、45-48 頁
所属学会	教育史学会、日本教育史研究会、日本教育史学会、日本教育学会、歴史科学協議会、歴史学研究会

一言

「深く掘れ、己の胸中の泉、余所たよて水や汲まぬごとに」(伊波普猷)
大学生のころ、何を学ぼうか、どんなふうに生きようか、と思案していた時にでくわした琉歌です。僕にとって啓示となりました。みなさん、学生生活で、その後の人生に繋がる何かを見つけられるといいですね。